

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業コード 151-01-01

事務事業名		水質管理事務事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		水道局工務課		連絡先		内線5042	
総合基本計画	施策目標	1	快適でおいしいのある 住みよいまち	予算科目	会計	水道会計	
	施策	5	上下水道		款	事業費用	
	施策の方向	1	安全で安定した水の供給		項	営業費用	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内住民					
	目的 (どうしたいか)	いつでも安全で安心して利用することのできる水道水の水質の管理を適正に行う					
	手段 (事業内容)	水道法第4条で定められている水質基準を厳守し、取水時・送水時・末端等に至るまでの水道水について安心して利用することができるよう日常的に水質の管理を行う。					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
当初予算額	事業費	31,736	10,532	10,846
決算額	事業費	23,521	24,042	-
	特定財源等	0	0	-

≪主な内訳(令和2年度決算)≫

【事業費】	河南水質管理ST	18,056千円
	薬品費	5,737千円

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	水道水水質検査年間実施日数	単位	回	
指標の説明	安全で安心して利用するための水道水の水質検査実施日数			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		366	365	365
実績		366	365	-

≪事業の参考数値等≫

【給水人口】	R2	107,215人	
【水質検査場所数】	R元	11地点 R2	12地点
【河南水質管理水質検査数】	R元	3,007体 R2	3,184体

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	水道水水質検査適合率	単位	%	
指標の説明	水道水水質検査適合回数÷水道水水質検査回数×100			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		100	100	100
実績		100	100	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
市民生活において、「命の水」でありライフラインを担う水道事業の水質検査は、水道法に定められた水質基準で検査し管理を行うものであり、安全で安心して利用することのできる水道水を提供するためには、必要不可欠な事業である。水道水の安全性の確保のため水質検査は、水道法で定められている水質基準項目51項目・水質管理目標設置項目27項目等の法定検査を原水・処理工程水・浄水・末端給水等で実施すると共に、末端給水部において残塩・色・濁り・味・臭気等の検査を毎日実施している。また、配水池の給水区域内に24時間365日の水質を管理するモニターを市内5か所設置し監視を行っている。	

今後の改善内容
(令和3年度以後の事業実施への改善内容)
以後も必要不可欠な事業として引き続き現状を維持し、事業を実施する。

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

		事務事業コード		151-02-01	
事務事業名		水道管路管理事務事業		事務の種類 自治事務(任意のもの)	
				連絡先 内線5042	
担当部署名		水道局工務課		会計 水道会計	
総合基本計画	施策目標	1	快適でおいしいのある 住みよいまち	予算科目	款 事業費用
	施策	5	上下水道		項 営業費用
	施策の方向	1	安全で安定した水の供給		目 配水及び給水費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内住民			
	目的 (どうしたいか)	いつでも安全で安心して利用することのできる水道水を各家庭に安定して送水する管路の管理を適正に行う			
	手段 (事業内容)	送水管・配水管等の市内に約450kmある水道管の材料・口径・布設年度等を管理、管路の破損による漏水事故等の迅速な処置による管理等を日常的に行う			

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
当初予算額	事業費	140,791	186,797	190,468
決算額	事業費	87,451	90,130	-
	特定財源等	0	0	-

《主な内訳(令和2年度決算)》

【事業費】
委託料 71,139千円
※水道修繕・漏水調査委託料等
路面復旧費 11,515千円

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	漏水事故修繕件数	単位	件	
指標の説明	水道メータまでの配水管・給水管で発生した漏水事故の修繕件数			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		150	180	190
実績		188	189	-

《事業の参考数値等》

【管路延長】	R元 461km R2 463km
【耐震化済み延長】	R元 131km R2 137km
【耐震化率】	R元 28.4% R2 29.6%
【漏水件数】	R元 1,254件(道路部 188件) R2 1,307件(道路部 189件)

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	漏水事故修繕率	単位	%	
指標の説明	漏水事故件数÷漏水事故修繕件数×100			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		100	100	100
実績		100	100	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
市民生活において「命の水」でありライフラインを担う水道事業の水道管の管理は、安全で安心な水道水を安定して提供するために必要不可欠な事業である。近年、水道管の老朽化等により漏水事故が増加しており、迅速で効果的な対応・処理を行い、水道利用者への影響を極力抑制すると共に、漏水事故による不明水等を減らし効率的で効果的な水道事業の運営に努める。	

今後の改善内容
(令和3年度以後の事業実施への改善内容)
布設年度・管種等を把握し、管路の事業計画等に反映しより効果的な事業展開を図るための基礎資料の構築に今後も継続的に取り組む。

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

		事務事業コード		151-02-02	
事務事業名		水道施設管理事務事業		事務の種類 自治事務(任意のもの)	
担当部署名		水道局工務課		連絡先 内線5042	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうおいのある 住みよいまち	予算科目	水道会計
	施策	5	上下水道		事業費用
	施策の方向	1	安全で安定した水の供給		営業費用
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内住民			
	目的 (どうしたいか)	安全で安心して利用することのできる水道水を安定して提供するための「つくる」「送る」「ためる」施設の管理を適正に行う			
	手段 (事業内容)	石川浄水場・壺井浄水場・羽曳山配水場・伊賀受水場・西浦受水場・低区第1配水池・低区第2配水池・高区配水池・壺井配水池等の「つくる」「送る」「ためる」水道施設を日常的に適正な管理を行う			

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
当初予算額	事業費	787,316	795,489	763,987
決算額	事業費	603,934	600,701	-
	特定 財源等	0	0	-

≪主な内訳(令和2年度決算)≫

【事業費】	受水費	392,259千円
	委託料	137,235千円
	※設備機器類保守点検委託料	
	動力費	63,268千円

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	水運用・施設管理等業務委託等発注数	単位	件	
指標の説明	安全で安定した水道水を供給するために必要な水運用や施設・設備の保守点検等の発注した委託業務数			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		14	15	12
実績		15	11	-

≪事業の参考数値等≫

【総配水量】	R元	11,804km <sup>3</sup>	R2	11,909km <sup>3</sup>
【受水量】	R元	5,511km <sup>3</sup>	R2	5,707km <sup>3</sup>
【配水モニタ数】	R元	5箇所	R2	5箇所
【設備機器数】	R元	1,122点	R2	1,132点

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	水道水の提供に支障が発生した故障・事故件数	単位	件	
指標の説明	水道施設の停止を伴う事故・故障件数			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		0	0	0
実績		0	1	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	
			A
			A
			A

総合評価	<b>現状維持</b>
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
市民生活において、「命の水」であるライフラインを担う水道事業の水道施設の管理は、24時間365日安全で安心な水道水を安定して提供するために必要不可欠な事業である。施設の運転管理については、24時間365日委託業務等により人員を配置し、水源の確認・水質監視・配水池の水位・送水量等の調整を行い、いつでも最適・健全な施設の運転・保全に努めている。	

今後の改善内容
(令和3年度以後の事業実施への改善内容)
以後も継続して施設・設備の保守点検を定期的に実施し、適正に管理・運転することができるよう努め、安定した水道水の提供を実現する。

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

		事務事業コード		151-02-03	
事務事業名		給水栓管理事務事業		事務の種類 自治事務(任意のもの)	
担当部署名		水道局工務課		連絡先 内線5040	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうおいのある 住みよいまち	予算科目	水道会計
	施策	5	上下水道		事業費用
	施策の方向	1	安全で安定した水の供給		営業費用
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内住民			
	目的 (どうしたいか)	民間開発の配水給水管の布設や個人家屋の給水装置工事を新設・改造等の工事や、水道法及び羽曳野市水道事業給水条例に基づき、安全で安定した水道水の供給を適正に行う			
	手段 (事業内容)	安全な水道水を安定して各家庭に提供するため、適正な管路の配置・管径・材料等の協議・指導を行うと伴にライフラインの一役を担う、給水装置工事をを行う業者の指定に伴う審査等を行う			

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
当初予算額	事業費	2,994	2,731	3,614
決算額	事業費	1,843	254	-
	特定 財源等	0	0	-

≪主な内訳(令和2年度決算)≫

【事業費】	路面復旧費	30千円
【特定財源】		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	給水装置工事申請件数	単位	件	
指標の説明	1年間で給水申請のあった新設、増径、口径変更の件数			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		550	600	500
実績		641	513	-

≪事業の参考数値等≫

【給水装置工事申請】	R元 641件	R2 513件
【指定店件数】	R元 433件	R2 411件
【民間開発】	R元 63件	R2 71件
【給水戸数】	R元 43,348戸	R2 43,513戸

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	給水装置工事申請に対する許可件数割合	単位	%	
指標の説明	給水装置工事申請許可件数÷給水装置工事申請全件数×100			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		100	100	100
実績		100	100	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
市民生活において、「命の水」であるライフラインを担う水道事業の給水栓管理事務は、水道法に基づき、給水申請者に対して給水装置工事申請の受付・審査・指導、現場の施工立会・水質検査・水圧検査等を実施すると共に、その水道工事を施工することのできる業者の指定、また、開発等による適切な配水管の設置協議、整備後の水道管の適切な管理のための材料承認等を行っており、安全で安心して使用することができる水道水の確保のためには、必要不可欠な事業である。	

今後の改善内容
(令和3年度以後の事業実施への改善内容)
以後も必要不可欠な事業として引き続き現状を維持し、事業を実施する。

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

		事務事業コード		153-01-01		
事務事業名		管路・施設更新事業		事務の種類		
				自治事務(任意のもの)		
担当部署名		水道局工務課		連絡先		
				内線5032		
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある 住みよいまち	予算科目	会計	水道会計
	施策	5	上下水道		款	資本的支出
	施策の方向	3	水道施設等の整備と更新		項	建設改良費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内住民				
	目的 (どうしたいか)	管路や施設の整備・更新を行い、耐震化を図ることにより、水道水の安全・安心・安定の確立を目指す				
	手段 (事業内容)	老朽化管路及び施設の耐震化を計画的・効率的・効果的に実施すると伴に下水や大阪ガス等の地下埋設物関係者と協働し、管路の整備・更新を行う				

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
当初予算額	事業費	798,293	973,426	795,504
決算額	事業費	382,846	430,092	-
	特定財源等	0	0	-

≪主な内訳(令和2年度決算)≫

<p>【事業費】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事請負費 393,572千円</li> <li>(管路:移設・改良工事・設備工事)</li> <li>・委託料 23,618千円</li> <li>(設計・家屋調査等)</li> <li>・負担金 12,859千円</li> <li>(下水道・大阪ガス等との協働事業による舗装工事費)</li> </ul> <p>【特定財源】</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	水道管整備工事に伴う耐震化延長	単位	m	
指標の説明	水道局発注工事において耐震化された管路の延長			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		3,000	4,070	4,820
実績		3,566	3,075	-

≪事業の参考数値等≫

<p>【管路工事発注件数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R1.改良 14件・移設 5件</li> <li>R2.改良 12件・移設 2件</li> </ul> <p>【管路工事延長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R1. 3,566m</li> <li>R2. 3,075m</li> </ul> <p>【施設工事発注件数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R1. 0件</li> <li>R2. 4件</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	管路耐震化率	単位	%	
指標の説明	耐震化済管路延長÷管路総延長×100			
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		28	29	30
実績		28	29	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
<p>市民生活において、「命に必須の水」であるライフラインを担う水道事業の水道の管路・施設の更新事業は、全て耐震化事業として取り組んでおり安全で安心な水道水を安定して提供するために必要不可欠な事業である。今後も引き続きライフラインを担う水道事業として、経年管の軽減・耐震化率の向上を目指し管路の更新(耐震化)工事に積極的に取り組むと伴に、第6次水道施設整備事業と連携し施設の更新・耐震化も積極的に取り組み、災害に強い水道管路・施設の構築を目指します。</p>	

今後の改善内容
(令和3年度以後の事業実施への改善内容)
<p>公共工事に対する市民の関心が高くなっていることに鑑み、従来以上に他の建設部局との協力・提携を図り、効率的な事業推進を目指します。</p>

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業コード 153-01-02

事務事業名		災害時体制整備事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		水道局工務課		連絡先		内線5042	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうおいのある 住みよいまち	予算科目	会計	水道会計	
	施策	5	上下水道		款	事業費用	
	施策の方向	3	水道施設等の整備と更新		項	営業費用	
事業の概要	対象(誰を・何を)	羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内住民					
	目的(どうしたいか)	南海・東南海地震など大規模地震や水害等の大規模災害に備え、資材物資の備蓄・配備等および活動訓練等による準備を行う					
	手段(事業内容)	管路・施設の修繕や応急給水に必要な資材物資の備蓄及び配備を行うと伴に、有事の際の活動訓練を実施する					

予算・決算額		(単位:千円)		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
当初予算額	事業費	5,350	5,239	4,092
決算額	事業費	26,917	26,260	-
	特定財源等	0	0	-

《主な内訳(令和2年度決算)》

【事業費】
災害用資機材購入・配備
※給水袋・給水タンク・バルブキー
緊急用給水栓等
各種危機管理事象時のマニュアル作成

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	災害訓練回数	単位	回	
指標の説明		災害時に備えた各種訓練(災害応援含む)の回数		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		6	2	2
実績		3	2	-

《事業の参考数値等》

【応急給水施設】石川浄水場・伊賀受水場・低区第1配水池・低区第2配水池・応急給水拠点等
【応急給水資機材】
給水車1台・給水タンク5基・給水袋10ℓ 6,600枚・6ℓ 9,000枚・5ℓ 36,200枚・緊急用給水栓 28基等

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	給水袋の配布可能率	単位	%	
指標の説明		給水袋(3ℓ換算値)÷羽曳野市行政区域内人口×100		
		令和元年度	令和2年度	令和3年度
目標(見込)		86	85	91
実績		86	85	-

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きい。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
市民生活・ライフラインを担う水道事業として、災害発生に備え大阪広域水道企業団や近隣市等の関係事業体と災害応援協定を締結し、毎年、応急給水訓練等を実施していると伴に、平成30年度は大阪北部地震時に応援派遣し、応急給水活動を行った。また、水道資機材・漏水修繕材料・漏水発見・運転管理システム等の関係企業体とも災害応援協定を締結し、早期に給水再開を目指すべく準備に努めている。また、災害時に必要となる資機材や給水袋等を計画的・定期的購入すると伴にその購入物資を適切に配置するべく事業を積極的に実施している。	

今後の改善内容
(令和3年度以後の事業実施への改善内容)
以後も必要不可欠な事業として引き続き現状を維持し、事業を実施する。

令和3年度羽曳野市事務事業評価シート(令和2年度実施事業)

事務事業コード 153-01-03

事務事業名		第6次水道施設整備事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		水道局工務課		連絡先		内線5032	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある 住みよいまち	予算科目	会計	水道会計	
	施策	5	上下水道		款	資本的支出	
	施策の方向	3	水道施設等の整備と更新		項	建設改良費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	羽曳野市水道事業の設置等に関する条例の第2条の第2項の給水区域内住民					
	目的 (どうしたいか)	管路や施設の整備・更新を行い、耐震化を図ることにより、水道水の安全・安心・安定の確立を目指す 事業実施年度:平成30年度～令和6年度 7箇年計画					
	手段 (事業内容)	受水場や配水池の施設や施設間の送水管及び重要給水施設の優先度1位の施設への配水管の耐震化を計画的・効率的・効果的に実施する					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和2年度決算)≫	
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	【事業費】	
当初予算額	事業費	492,821	818,513	1,181,917	・工事請負費 302,973千円 (管路(配水管・送水管))	
決算額	事業費	114,725	380,650	-	・委託料 43,203千円 (設計費)	
	特定財源等	0	0	-	【特定財源】	

活動指標				(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)			
指標名		工事・委託業務発注数		単位	件数		
指標の説明		水道施設・管路の工事及び委託業務の発注した件数					
		令和元年度	令和2年度	令和3年度			
目標(見込)		17	20	31			
実績		10	20	-			

成果指標				(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)			
指標名		工事・委託業務完了率		単位	%		
指標の説明		工事・委託業務完了件数/工事・委託業務発注件数×100					
		令和元年度	令和2年度	令和3年度			
目標(見込)		100	100	100			
実績		59	100	-			

【事業費】  
・工事請負費 302,973千円  
(管路(配水管・送水管))  
・委託料 43,203千円  
(設計費)

【特定財源】

≪事業の参考数値等≫

【発注件数】  
R1.配水管工事(耐震化) 2件  
R2.配水管工事(耐震化) 8件  
【委託業務発注件数】  
R1.設計委託他 8件  
R2.設計委託他 12件

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。		A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。		

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
本事業は、水道法第2条第2項に基づき、平成28年度に策定した「羽曳野市水道事業整備基本計画」に準じ、水道管路・施設の更新・耐震化を集中的にまた計画的に事業を実施するもので、市民生活・ライフラインを担う水道事業として安全で安心な水道水を安定して提供するため管路・施設の更新・耐震化は、必要不可欠な事業である。平成30年度より令和6年度の7か年事業として事務計画を推進し、積極的に効果的・効率的な事業展開を行い、災害時に強い水道管路・施設の構築を目指します。	

今後の改善内容
(令和3年度以後の事業実施への改善内容)
当事業も下期に差し掛かり、より効率的に事業を進めるよう工程管理の徹底が求められている。